

1. 活動報告（事務局 記）

- 11月25日（金）餅米精米（JA山口嘉川精米機にて）
- 11月26日（土）「水と里山の環境探検ツアー」の御一行を案内しました。今井会長、西原、原田各会員により、親と子34名、宇部健康福祉センタースタッフ6名の合計40名を昭和山遊ロードからビオトープ一周コースにて散策しました。
これによる、ガイド料(前準備の通路保全費含む)と講師料をいただきました。
- 12月3日（土）本日無事めでたく収穫祭PART-1を行なうことが出来ました。会員26名、観察隊隊員19名、及び保護者会員13名、二俣瀬子ども会13名及び保護者3名、二俣瀬小学校校長先生ほか3名、公民館花田さん親子3名、車地婦人応援6名総勢86名で餅つきを行ないました。来賓として宇部市長さんほか、環境部長さんが見学に来られ盛大に行なうことが出来ました。
- 12月17日（土）本日収穫祭Part-2がすみました。そば打ち、試食は観察隊7名、保護者6名、会員27名で蕎麦打ちの実習をして試食をしました。
午後は会員28名にて忘年会を行いました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

現在のところ予定なし

◎ 行事

- 12月29日（木）臨時の活動 収穫祭Part-3（蓮根掘り）
- 1月21日（第三土曜日）の活動

3、今年を振り返って 副会長 原田賢治

歳暮、師走、毎年のようにやってくる太陽と月の周期を友として流転のうちに、喜びや悲しみを織り成しての節目に過ぎないのですが、何かしら気ぜわしく思われるのは、どうしたことなのでしょう。

さて世の中のことはさておき、身近な会のことを振り返ってみると、この一年は、維持管理を目的とした、湿地帯観察道補修材料の運搬(江汐公園)から始まり、その補修作業、各所の草刈りまた、絶滅危惧植物の補植と地味ではあるが大切な活動に取組みました。また定例の活動では田植え、そばの種まき、椎茸菌の打ち込みなど秋の収穫を楽しむ活動にも取組みました。

今年も台風14号の襲来はあったが、大きな被害も無くまずまずの収穫(もち米201kg、そば粉18kg、椎茸もたくさん収穫しました。蓮もあります。)でした。ダイガラで搗いた餡餅、新そば粉で打ったそば粉の味は如何でしたか・・・。

3年目を迎えた「里山自然観察隊」の活動も、その目的である「動植物とふれあいを通して自然の大切さを学ぶ環境教育活動」も年間計画を基に、各担当指導者の協力を得て充実した活動が出来ました。隊員にとって将来楽しい宝物になるでしょう。

皆様の力添えで力強く一步一步前進しています。6年目を迎える新しい歳もいろいろと計画されると思います。皆様の“力”御指導をよろしくお願いします。

皆様良い年をお迎えください。

4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝 ウシ殺しと呼ばれる木ークロミノサワフタギとカマツカ

クロミノサワフタギ(ハイノキ科)は、山口県と九州にまれに生える落葉低木です。山口県のレッドデータブックでは、絶滅危惧ⅠA類に指定されている希少植物です。今年10月の里山自然観察隊で、偶然発見することができました。サワフタギに似ていますが、果実が黒く熟します。サワフタギの方は、別名ルリミノウシコロシ(瑠璃実の牛殺し)の名前があるように実の色は瑠璃色で、樹皮が縦に裂けるのに対し、クロミノサワフタギの樹皮は、樹皮はほかのサワフタギ類とは異なり、サクラの樹皮のように横に裂け、実の色が黒です。

サワフタギとは、漢字で書けば沢蓋木、沢におおいかぶさるように生い茂ることからきています。サワフタギ類には、サワフタギ、タンナサワフタギ、クロミノサワフタギ、クロミノニシゴリと4種類あります。サワフタギは低地の里山に多く、タンナサワフタギはやや標高の高いところにあります。ちなみにタンナ(耽羅)は最初発見された济州島の古名だと言われます。山口県でも旧徳地町の飯ヶ岳では、タンナサワフタギが優先していました。クロミノニシゴリは湿地周辺に分布します。クロミノサワフタギは、昭和山遊ロード沿いに2本の木があります。もう今では葉っぱは落ちてしまっているのでどの木がそれかわからないでしょうが、きれいに紅葉する木なので、来年の11月ころに紅葉と黒い実を目当てに探せば、この絶滅危惧種クロミノサワフタギがもっとビオトープ周辺で見つかるかもしれません。

バラ科のカマツカは、そのものずばり、「ウシコロシ」という別名がついています。牛の鼻輪に使ったり、その鼻に穴を開けるのに用いたといわれています。毒があるという意味ではありません。材は硬く、折れにくいという特徴があるためでしょう、鎌の柄(つか)に使われたところから、カマツカという和名が付きました。余談ですが、須賀河内川にも棲んでいる魚のカマツカは、どのようなところからカマツカという名前が付いたのでしょうか。木のカマツカは、初夏には白い梅のような小花をアジサイ状に咲かせ、秋には赤い小さなサクランボ状の実を房状に付けます。実はけっしておいしいとは言えませんが、酸っぱいので果実酒に向いているかもしれません。この木も秋の終わりにはきれいに朱色～オレンジ色に紅葉し、赤い実とあいまって、晩秋の里山を飾る、見応えのある木です。



クロミノサワフタギ (ハイノキ科)



カマツカ (バラ科)

5. ビオトープ関連 (会員の声) (原田 満洲夫 記)

私が住居している車地の横山地域を紹介させていただきます。ビオトープのそば田から古道を山越えすれば、歩いてほんの5分程度で可能です。歴史的にもかつては宇部～萩に累代の福原公が通ったであろう古道が現在の市道の東側の山の中にあり、知っている人は知っている、知らない人は二俣瀬の住民でも知らないと言うところである。

この横山は、古くは厚東判官が長門の守護職時代(平安の末期から室町初期)周防の守護大内弘世との戦いが始まり長門の国境に位置し厚東氏の霜降城から一望できる所に防衛の砦を作った場所でもある。その防衛の武将こそ厚東氏の重鎮、この地の名前となった横山何がし氏であったといわれている。大内弘世の軍勢が厚東川を渡らず、この横山を進撃しながら田の小野、持世寺、霜降山を攻め入った経緯は歴史上でも記録されている。現存する遺跡としては、無名戦士の墓が田の小野やこの横山に無数に存在している。また横山氏の居住地には、丘の畑の中にこんもり茂った森と、庭石の残骸が今でも残っている。

横山にはその他古道沿いに焼き物の生産地だった跡もあり瓦、瓦釘等の瓦礫の山や、粘土を掘り出した大きな堅穴が無数にあり、いまだに歴史を物語っている。

古い歴史を調べるうちに自分たちの祖先の生活が心に浮かぶ、本当のロマンを起こさせてくれます。一度ビオトープの帰りにはおいでください。ご案内をさせていただきます。

次回は久々 林弘之 会員にリレーします。宜しく

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

— 記帳なし

7. 会よりの連絡事項

— 1 — 新年の活動日について

第一日曜日は正月であるため中止となります。第三土曜日を初活動日として参集ください。

- 2 — 活動予定は1、椎茸ホダ木原田宅から正式場所に運搬、
2、湿地帯不要橋(危険橋部)解体
3、看板杭用ヒノキ丸太切り出し運搬
4、竹炭用原木製作

8. 編集後記

12月は、今年の締めくくりとして、2回の収穫祭が執り行われました。皆さんも同様でしょうが、師走は何かと忙しく、私は1回目の収穫祭(餅つき)には参加できませんでした。残念です。

さて17日は、今年最後の公式行事となる、収穫祭パート2(蕎麦打ち・忘年会)が執り行われました。蕎麦打ちは、今回で何回目になるのでしょうか。蕎麦の出来具合は、初回と比べると明らかに感触が良く、皆さん、腕を上げたなと感服いたしました。しかし、個人差はあります。

私が蕎麦を打ったのは、今回が2回目となります。結果は、散々なものでした。練った時点で、他のものと比べ、明らかに弾力がないのが解りました。渡辺さんに手伝ってもらい、何とかごまかして麺にしたものの、端はボロボロと取れ、麺本体も腰の弱いものが出来上がってしまいました。私の打った蕎麦を食された方、お気の毒でした。来年こそは、おいしい蕎麦を打ちたいものです。地域通貨で購入したそば粉を使って腕を上げたいのですが、このためには道具一式、揃えなければなりません。

29日は、非公式ではありますが、蓮根堀がある予定です。正月料理に使うには、最適の日取りとなります。しかし問題はこの寒さです。師走に入って寒い日が続いておりますが、この日ばかりは、日差しに恵まれ、水が緩むことを祈るしかありません。少しでも多くの蓮根を掘って、家計の足しにしたいものです。

それでは皆様、良いお年を。

(前田 歳朗 記)